



SIGNIS JAPANニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（日本カトリック メディア協議会）
 代表：千葉茂樹
 発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42
 聖パウロ女子修道会内
 TEL. 03-3479-3941 E-mail: info@signis-japan.org
<http://signis-japan.org/>

復活祭、おめでとうございます！ SIGNIS JAPAN（日本カトリック メディア協議会）のニュースレター、「タリタ・クム」の第2号をお届けします。この言葉は、イエス様が亡くなった少女を生き返らせた時に呼びかけた言葉で、アラマイ語で「起きなさい」の意味です。さまざまな意味で今、神様から私たちに向けられた言葉だと思います。回を重ねるごとに魅力あるものにしていきたいと思っています。発行は年に4回を目指します。よろしくお願いします。

ニュース

第34回日本カトリック映画賞作品決まる！



前の年に日本で制作された映像作品の中から、カトリックの世界観と価値観にもっとも適う作品に贈られる日本カトリック映画賞。第34回目を迎える今年は伊勢真一監督の「風のかたち〜小児がんと仲間たちの10年〜」が選ばれました。小児がんの子どもたちと彼らを支える医師たち、そして家族の姿を10年にわたって撮り続けたこのドキュメンタリー映画は、病気になっても人は輝くことができると確信させてくれる作品です。「小児がん患者や体験者を、悲劇の主人公ではなく、「再生」のシンボルとして描いたこの物語は、命の尊さ、生きる意味を問ひかけ、「心が病んだ時代」としばしば言われる私たちの社会に、希望をメッセージするに違いありません」と伊勢監督は言います。またこの映画の監修者であり出演もしている細谷亮太医師（小児科医・聖路加国際病院副院長）は、「子どもは、死んじゃあいけない人たちだよ…小児がんはもう不治の病ではありません」と語ります。

来る6月12日（土）、この映画の上映と日本カトリック映画賞授賞式、伊勢監督と細谷亮太医師のトークショーが川崎市アートセンターで行われます。（鈴木記）

伊勢真一監督

1949年東京生まれ。父は記録映画編集者として活躍した故・伊勢長之助。

1995年、重度の障害をもつ少女の12年間を追った作品「奈緒ちゃん」で、毎日映画コンクール記録映画賞グランプリを受賞。その後も「ルーベ」(97)、「えんとこ」(99)、「ぴぐれっと」(02)、「朋あり〜太鼓奏者 林英哲〜」(04)、プロデュース作品「タイムグラバあちゃん」(04)などを発表し、テレビ、映画と幅広くヒューマンドキュメンタリーを手がける。



第34回日本カトリック映画賞 授賞式&上映会

日時：2010年6月12日（土）

12:30 開場
 13:00 千葉茂樹監督 トーク
 13:15 上映「こちらたまご 応答ねがいます」
 14:00 休憩
 14:15 授賞式
 14:35 上映「風のかたち〜小児がんと仲間たちの10年〜」
 16:20 休憩
 16:30 対談：伊勢真一監督／細谷亮太医師
 17:30 終演

会場：川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
 川崎市麻生区万福寺 6-7-1 TEL: 044-955-0107
 交通：小田急線「新百合ヶ丘駅」北口徒歩3分

チケット：1,800円
 チケット販売所：サンパウロ、聖イグナチオ教会案内所、
 スペース セントポール、天使の森

映画チームからの お薦め映画

『グラン・トリノ』

鈴木 浩



悪い奴は容赦なく撃ち殺すダーティーなヒーローを数多く演じてきたクリント・イーストウッド。その彼が晩年に「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」（ヨハネ15-13）という聖書のみことばそのままのような映画を作ったことに心打たれた。妻に先立たれ、今は子ども達も寄りつかない頑固な爺さんウォルトを演じ、監督も彼自身だ。孤独な日々を癒してくれるのは、グラン・トリノという自慢の車と愛犬、そして缶ビールだけ。あるきっかけから隣家の少年タオと知り合う。タオはウォルトが軽蔑するアジア系移民だ。やがてウォルトとタオの間に心の絆が生まれる。ウォルトは、タオと知り合い、人生の終り近くなって自分の価値観の見直しをしていく。タオに襲いかかる危機をもはや放っておけないウォルトは思いがけない行動で人生を締めくくる。なぜかこの映画にはカトリックの香りがする。たとえ亡妻の願いであっても「神学校を出たばかりの神父に告解をするものか」と豪語していたウォルトは、その若い神父に告解をして、最後の瞬間にはマリア様への祈りまで唱えるのだから。この作品はウォルトの死を前にした生きなおしの物語であり、ひょっとするとイーストウッドの信仰告白なのかもしれない。（DVD 発売中）

ミニミニ メディアリテラシー 「ラジオ・ヴェリタス」

前回に続いて、もう少しラジオについて「読み解いて」みましょう。皆さんは「ラジオ・ヴェリタス」という名前を聞いたことはありませんか。今から四半世紀前、あのフィリピンの独裁者マルコス政権を倒すのに、非常に大きな役割を担ったカトリックの放送局です。アジア地域における福音宣教を目的にフィリピンのマニラで開設された「ラジオ・ヴェリタス」は、正式名称を「ラジオ・ヴェリタス・アジア (Radio Veritas Asia=略号R.V.A)」と言い、1958年の「カトリック東南アジア司教会議」においてその設立が立案され、1969年からアジア司教協議会連盟 (FABC) の下で正式に放送を開始しました。名前の「ヴェリタス」はヨハネ福音書8:32の「真理はあなたたちを自由にする」(ラテン語で“Veritas Liberabit Vos”)に由来します。日本語放送も、1976年から92年まで16年間流されました。1983年、「ラジオ・ヴェリタス」はその真価を発揮します。同年8月21日、次期大統領候補の最有力者、ベニグノ・アキノ上院議員が逃亡先のアメリカから帰国します。フェルディナンド・マルコス大統領にとって彼は、最大のライバルにして脅威でした。しかしアキノ氏は到着したばかりの飛行機から兵士によって連れ出され、そのままマニラ国際空港の片隅で射殺されます。その一部始終はニュース映像としてテレビで放映され、全世界に大きな衝撃を与えました。アキノ氏暗殺をきっかけに、フィリピンのカトリック教会はこの「ラジオ・ヴェリタス」を使って、果敢に政府批判を展開します。それは命がけのプロパガンダであり、挑戦でした。教会は「ラジオ・ヴェリタス」のほかにニュース雑誌『ヴェリタス』も発刊、「声」と「活字」を駆使して真実の声を国民に語り続けました。そしてついにフィリピン教会の“父”、ハイメ・シン枢機卿 (1928~2005) が「ラジオ・ヴェリタス」を通して全国民に反乱軍支援を呼びかけます。この訴えはマルコス政権打倒 (1986年2月) に向けた民衆運動の発端となり、群集を恐れたマルコス夫妻は命からがらハワイに逃れ、マルコス帝国は崩壊しました。「ラジオ・ヴェリタス」と雑誌「ヴェリタス」は、事件を忠実に伝える最前線の役割を果たし、その活動は今も続いています。利便性、消費礼賛、社会的・倫理的束縛からの解放などなど、さまざまな魅力あるうたい文句が蔓延する現代社会の中であって、何が「ヴェリタス (真理)」であるかを知る静けさと賢慮、そしてその「ヴェリタス」を恐れずに伝え続ける信仰と勇気を、“真理の主”に願いたいものですね。

会員紹介

土屋 至 (SIGNIS JAPAN副会長)



2年前に23年勤務していたカトリック学校をやめてから、名刺に載せる肩書きがなくなりました。大学で「宗教科教育法」を教えたり、ある大学からは「客員教授」なる肩書きをいただいたりしましたが、ちょっと気恥ずかしくておそれおおく。それでいろいろと考えた末に「evangelist」って自称することにしました。「福音を告げる者」という意味です。昨年10月にチェンマイのSIGNIS Worldにでかけた時にこの名刺を出したら、「きみはプロテスタントか？」っていわれました。そういわれるとこの言葉はプロテスタントで使うことが多いようです。福音派とか福音主義とかいうのはプロテスタントです。でもこの言葉をカトリックでも使ったらいいという想いを込めて使うことにしていて、この自称の肩書きが気に入っています。

教会で25年間続けてやってきた「キリスト教入門講座」をインターネット上で展開することを私のミッションだという私のおもいに基づいて、「インターネットで福音宣教を」という趣旨のSIGNISインターネットチームで活動しています。特に教会ホームページをどうしたら、福音宣教のために活用できるのか、何を教会ホームページに載せたらいいのかということを継続的に考えています。SNN (SIGNIS Good News Network) プロジェクトも、サンプル作り等を通して具体的な内容を煮詰めています。これを是が非でも発展させたいと思います。その他にも「90歳の母の介護」「CLC」「宗教を教えるカトリック学校教員のネットワーク」「カトリック学校教員養成塾」「十二所黙想の家」「きぼう日本語教室」「おもしろ科学たんけん工房」にも関わっています。ちょっと手を広げすぎたかなという感じがしますが、なにしろおもしろいことが多すぎて。

SIGNIS JAPANとは

SIGNISとは世界140ヶ国に広がるカトリックのメディアに携わる人々の世界組織です。平和文化の促進、人間の尊厳擁護、子どもの権利擁護が近年のテーマです。司祭、修道者、一般信徒が参加しています。映画、放送、視聴覚、最近ではインターネットを活用した福音宣教に力を入れています。日本ではサンパウロ、女子パウロ会、中央協広報のほか、ボランティアの信徒が活動しています。カトリック映画賞、インターネットセミナーのほか、これからはインターネット放送局への取組みなど、さらに活動の幅を拡げていきたいと考えています。



賛助会員になってください！

私たちの活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年会費は一口3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、下記銀行口座、または郵便振替口座にお振り込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店
普通 1679019
SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹
郵便振替 口座番号：00100-0-534547
口座名称：日本カトリック メディア協議会

連絡先：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42
聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN
info@signis-japan.org <http://signis-japan.org/>